



Rule Making Project

丹高ニュース

№3

令和7年6月13日(金)

～ 豊かな学びの実現 ～

ルールメイキングプロジェクト+2025～Go for it“やってみたい”の実現へ～
エリアカンファレンス@えひめ

校則などのルールを対話を通じて見直し生徒の主体性を育むルールメイキングプロジェクトに関連したイベントが、西条市丹原町願連寺の丹原高校であった。市内外8校の高校生約450人がワークショップ形式で、意見の食い違いを対話で解決するプロセスを体感した。

西条・丹原高「ルールメイキング」

ワークショップ形式でルールメイキングを体験する生徒



意見の
違い
対話で
解決

市内外の高校生450人 納得解探る過程体感

普段からクラスでルールメイキングを実践しているという丹原高2年の玉井咲采さん(17)は「気持ちよく意見を言い合えるとクラスの雰囲気がよくなる。人前で発言することがすごく好きになった」と話した。

(清家康尊)

「毎日強制参加は厳しすぎる」「みんなで練習することは大切」。生徒は役に立った考えを出し合いながら、クラス全員が納得して取り組める練習方法を探った。

認定NPO法人「カタリバ」(東京)が全国で展開するプロジェクトで、丹原高は2022年から実施。今回は市内の5高校に加え、今治南、北条三崎の生徒から5日、10人前後のグループに分かれてワークショップに取り組んだ。話し合ったテーマは体育祭のクラス対抗リレーの練習。体育委員が朝と放課後に毎日1時間、クラス全員による練習を提案したという設定を基に、本番で勝ちたい生徒、運動が苦手な練習に後ろ向きな生徒などの役を演じた。

県下から8校の参加、約四五〇名で実施。ボードゲーム
ルールメイキング・対話クエスト」を四国で初実施。
対話の大切さをリアルに体験！

令和7年6月13日(金)付け愛媛新聞
(掲載許可番号d20250613-01)